



# 菩提樹

佛さまに育てられる年輪

第16号 平成30年4月発行



編集・発行  
正法寺

山口市江崎2710

TEL

083-989-2213

FAX

083-989-5339

## 「信のうへは仏恩報謝と存じ候へば、 苦勞とは思はぬなり」

〔蓮如上人御一代記聞書 第172条〕



写真：平成三十年の御正忌報恩講の様子。御講師は、大阪市定専坊住職で信教校講師の山本撰叙先生。

「無常迅速」、最近、この言葉が身に染みるようになってきました。昨年は、前住職・前坊守の十三回忌法要をお迎えました。前住職が急な往生を遂げる約一か月前に生まれた新発意は、四月から中学生になりました。また、この十年の間に、お支え下さった多くの御門徒の方々、学生時代にご指導を仰いだ偉大な先生方など、多くの有縁の方々がお浄土にご往生されました。一方で、日曜学校を卒業した子ども達も成人になり、ご法座にお参りくださったり、十年前には誕生していなかった多くの小さな子ども達も、新たに正法寺の本堂で手を合わせる姿を目にするようになってきました。様々なことが、一時も留まることなく、刻々と移り変わってゆきます。そして、それは、この私自身も例外なく留まることはできないということでもあります。

親鸞聖人は、無常迅速の中にあっても、ただ一つだけ絶対に変わらないものがあるといいます。それは、仏心です。仏様の純粹な慈しみと悲しみの心は、変化することはありません。無常迅速の中に変わることなく、あらゆる命をいつまでも温かく包み込んでいきます。その変わらない仏心に揺り動かされた数知れない人々によって、何百年の間、変わらない姿を遺し続けているのがお寺です。社会が変わり、そこに集う人々の面々が変わっても、お寺は、相変わらず同じ風景を繰り返してきました。そして、その変わらない風景は、私達の宝物であるはずで。

本当に変わらないものこそ真実と呼べるものであり、無常迅速の中にある私達が、本当に出遇わなければならぬものなのです。無常なる者は、変わらないものに触れると、ほっと安心することができます。お寺にお参りをすることが、ほっと安心できることなら、それはもう、目に見えない如来様に出遇われていると言ってしまうでしょう。本当の安心が頂ける場所、そんなお寺の温かさを、今一度、大切に味わせていただきます。

(正法寺住職)

# 特集

## 御正忌報恩講

―受け継がれる浄土真宗の伝統―

御正忌報恩講は、浄土真宗の宗祖、親鸞聖人の御命日に勤められる、いわゆる親鸞聖人のご法事です。報恩講期間中には、本堂の左余間に親鸞聖人の御一生を絵物語で示される「御絵伝」が掛けられ、その御遺徳を偲びながら仏縁を頂戴します。宗祖の月命日の法要を「報恩講」と呼び、特に大切に勤めるのは、浄土真宗の大切な伝統です。「報恩講」というのは、直訳すると「恩に報いる集い」という意味です。親鸞聖人は、その九十年の御生涯を通じて、私達のような俗世間の中でしか生きることができない者にも必ず成仏していく道が確かにあることを、はつきりとお示しく下さいました。その御恩を味わい、その御恩に応えていく法要が報恩講です。

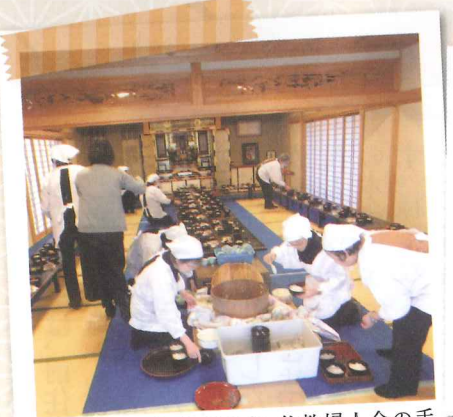
正法寺の御正忌報恩講は、お寺の周りに住む寺内地区の御門徒が法座当番となり、仏教婦人会や総代会をはじめ、全御門徒あげて勤められてきました。準備は一週間前から



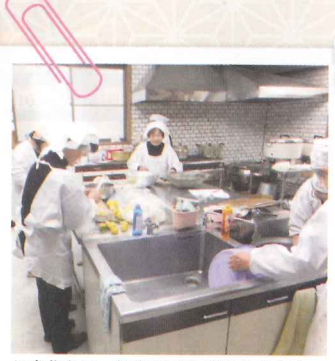
写真:本堂の左余間に掛けられる正法寺の「御絵伝」

始まり、報恩講の三日間は、毎年、延べ二百五十人〜三百人の方々が御参りされています。戦前は、正法寺の報恩講には、期間中、参道に多くの出店が出ていたと聞かせていただいたこともあります。しかし、現在は、過疎化、少子高齢化などを背景に、参詣者数も緩やかに減少しつつあります。恩という言葉自体が、人々の心から失われつつある現代です。毎年参詣されている方も、一度も参詣されたことのない方も、今一度、報恩講のご縁に遇わせていただく尊い意味を、大切に味わわせて頂きましょう。

### 裏方・準備の様子



お斎の配膳も大変です。仏教婦人会の手際の良さには、いつも驚かされます。



お斎作りは、当番地区のご婦人方によって、連日遅くまで作業が続けられます。



お斎の一席目と二席目の間、台所では、準備と片付けで大忙しです。



小さく切ったお餅を、丁寧に積み上げていきます。とても神経を使う作業です。



固まったお餅を餅きり機で、小さく切っています。重労働です。

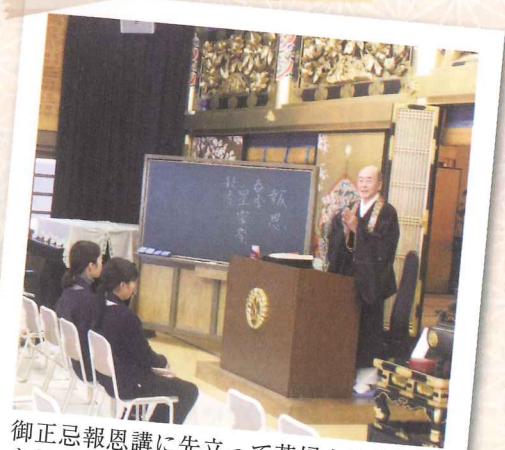


本堂お内陣にお供えするお飾り餅を作ります。紙の筒に熱々のお餅を流し込むのに一苦労です。

お参りの様々な様子



保育園の子ども達も、一緒に『正信偈』をお勤めします。



御正忌報恩講に先立って若婦人法座が開かれます。どなたでもお参りできます。



夜法座の様子です。男性もたくさんお参りくださいます。後ろでは、中高生もお聴聞しています。



昼間にお参りできなかった日曜学校生は、夜法座の前に中高生と一緒に朝食をいただきます。



二日目のお昼休みに、日曜学校の子も達もお参りします。お勤めが上手です。



夜法座では、親鸞聖人の好物が小豆だったことにちなんで、小豆粥が振る舞われます。



お斎場の様子です。一度に60人が入ります。多い時には、これを三席、用意します。



何十年も変わらない、正法寺の御正忌報恩講のお斎です。ケンチョウの味は、どこにも負けません。

# 前住職・前坊守十三回忌法要

～お二人を大切に偲んで～

平成二十九年十二月十一日(月)  
御講師/本願寺派布教使・美祿市明厳寺住職  
中島昭念 師



## 「懐かしさいっぱいの元子先生」

幸の橋 藏岡美恵子

十三回忌の御法要の日、瑞洋前住職様、元子前坊守様のお写真に接していると、時を超え、昔の事が懐かしく思い出されました。

中四国音楽研究大会で、山口市民会館大ホールにて園児が、ミュージカルを発表した時、元子先生の見事なピアノ伴奏は圧巻でした。また、二十年前、カナダで開かれた世界仏教婦人大会にご一緒させていただき、如来様の御許に世界の人々が集う喜びと感動を味わせていただきました。

元子先生は、仏教讃歌「やさしさにであつたら よろこびを分けてあげよう しあわせとおもつたら ほほえみをかわしていこう」の歌がお好きで、自らもそのような生き方をなさり、今尚、輝く笑顔で私達を還相回向し続けてくださっています。

## 「ありがたいご縁を頂いて…」

前寺内 村田和彦

正法寺本願納骨堂の礼拝堂に、瑞洋さんからの依頼を受けて、私が造仏し奉納した阿弥陀如来立像の入仏は、瑞洋さんによって、平成十六年九月に本廟の落成式に合わせて行われた。瑞洋さんからは、「大変調和も取れ、落ち着きもよく鎮座しました。お返しは、将来にわたり、ご照育頂く如来様と有り難くつかえさせて頂きます」というお手紙を頂いた。

この本廟には、平成十九年十一月に往生した私の長女育恵も、不思議なご縁でお世話になっている。今は亡き瑞洋さんからは、帰省の度に「正法寺によんで頂き、身に余る激励を頂いた。今は、「生かされて生きている」ことを再認識し、常に感謝のうちに精進することを、改めて瑞洋さんにお誓いをさせて頂くこととする。



## 「前住職様との思い出」

原条 廣兼重成

前住職・前坊守様の十三回忌法要に参詣し、いろいろ懐かしく思い出されます。お寺とのお縁は、中学生の時、寺内の親友からの誘いでした。聖歌隊に入り、色々な行事に参加したこと、金沢での仏青大会後、立山室堂で山小屋と一緒に泊まった事も思い出です。前住職継職法要の際にお手伝いさせて頂いたこと、時には、お盆やお取り越し報恩講の時期になると、運転手の依頼の電話が入ることもありました。

有田の陶器市に早朝からお寺のブルーバードで行き、途中、唐津の松林で前坊守様手作りのおむすびを食べたこと等々、仏縁を頂き、育てて頂いたこと、有難く思うと共に感謝しています。



## 「想い出は感謝と共に」

高根中 高井邦子

私達が仏教青年会の頃は、坊守様と共に、昔の台所「柿の木」でコーヒーやお菓子をいただき、みんなで楽しい青春時代を過ごしました。

坊守様が、子育てにお忙しい頃は、おんぶに抱っこをしながら、長い廊下を走るように多くのお仕事をこなされてました。

また、坊守様は、法座ごとに仏教讃歌をたくさん教えてくださいました。次第に体調が悪くなられても、イスに座ってコーラスを指導してくださいました。今でも「元子せんせい♥」とそつと呼んでみると、心が温かくなります。明るい笑顔の元子坊守様は、正法寺に咲いた大輪のヒマワリの花のようだったと思います。



# 山口南組

## 仏教子ども一泊研修会 お引き受け



▲先生から仏様のお話を聞いています。  
写真の先生は、嘉川の明正寺様の若院様です。



▲夕食は、仏教壮年会特製の焼きそばです。



▲夕食の様子。和気あいあいと楽しんでいます。

平成29年8月25日(金)・26日(土)の二日間にわたり、山口南組仏教子ども一泊研修会が正法寺のお引き受けで開催されました。山口南組十四ヶ寺が、毎年、会場を持ち回りしており、十四年に一度、お引き受けが巡ってきます。山口南組の若手僧侶の会である若僧会(現会長は正法寺住職)が中心となり、正法寺仏教婦人会、正法寺



▲夜には、けん玉教室も開かれました。  
けん玉に夢中になりました。

仏教壮年会が全面的にバックアップし、とても充実した二日間となりました。子ども達は、色々なお寺の日曜学校生と一緒に、仏様のお慈悲にどっぷりとつかり、夏休みの忘れられない思い出になったようです。

# 仏教壮年会活動紹介

昨年、結成五十周年を迎えた仏教壮年会、新たな歩みを進めていきます。未入会の男性御門徒の方、ぜひ、ご一緒にお寺を盛り立てていきましょう。今年も、年二回の懇親会を予定しています。随時、たくさんのご入会をお待ちしております。



年末奉仕作業の様子。お寺の裏を整備してくださいました。頼りになります。

奉仕作業終了後、仏教婦人会の皆様と一緒にカレーライスを頂きました。



# 若仏社会も元気です

三年前から三十歳代から五十歳代前半の男性の方々を中心に、仏教壮年会の下部組織として若仏社会を結成しています。現在、七、八名程度の方々が、年に二、三回お寺で集まっています。日曜学校のサマースクールのお手伝いや懇親会、夜法座への参加などの活動をしています。一年に一人ずつ新会員を増やすことと、京都のご本山へお参りすることが、当面の目標です。



懇親会前の本堂でのお勤めの様子です。回を重ねるごとに、お勤めの声も大きくなってきました。

お寺での懇親会の様子です。他愛のない話の中にも、お寺への熱い想いも聞かれます。



# 宗祖降誕会 ～喜びと感謝の法要～

宗祖降誕会は、親鸞聖人のお誕生をお祝いし、その御遺徳に感謝する中で、大切に仏法を聞かせていただく法要です。その歴史は新しく、明治九年に本願寺において、五月二十一日を親鸞聖人の誕生日と定め、お祝いの法要としてお勤めしたのが始まりです。従来、仏教において法要というものは、年回忌をご縁にお勤めするのが通例でした。その中で、誕生日をご縁として仏法を聞かせていただく法要というのは、伝統的な仏教教団としては画期的なことだったと思います。

正法寺の降誕会も、本願寺と同じ五月二十一日に、毎年勤められています。初参式や祝賀会、餅まきなど、普段の法座では見られない晴れやかなお寺の風景が、境内を彩ります。五月の温かい空気の中、喜びと感謝の思いに包まれます。参詣者の笑顔が溢れています。まだ、ご縁に遇われていない方は、ぜひ一度お参りください。



▲昨年の降誕会の様子。御講師は、大阪市法栄寺前住職の小林顕英先生です。



▲初参式は、コール芬陀利華による音楽法要が勤められます。



▲降誕会のフィナーレは、餅まきです。大人も子どもも、境内にいっぱいの笑顔が溢れます。



▲祝賀会では、日曜学校の子も達も、コール芬陀利華のメンバーと一緒に、素敵な歌を披露しました。



▲小林顕英先生の楽しいご法話に、思わず笑顔が溢れます。



▲毎年、様々な芸人さんが、祝賀会を盛り上げてくれます。



▲赤ちゃんが、生まれて初めてお寺にお参りする初参式の様子。小学生の子ども達に、大歓迎を受けています。

# 永代経法要 先人のお導きの中で

正法寺では、五月二十一日の宗祖降誕会に先立って、五月十九日・二十日の二日間にわたって、毎年、永代経法要が勤まります。永代経法要は、「永代にわたり、このお寺で仏様のみ教えが響き続けていくよう」先人の方々がお寺を護り、今の私まで大切に仏縁を繋いでくださったことに思いをいたし、深い感謝の中で仏法を聞かせていただく法要です。

各ご家庭で勤められる年回忌のご法事が、当家中に仏縁を繋いできてくださったご先祖に感謝申し上げ、その尊いお導きを頂く中で仏法を聞かせていただく法要なら、永代経法要は、その当家の仏縁の根本となるお寺を護り、大きな仏縁を繋いできてくださった数知れない人々に思いをいたし、先人のご苦勞が詰まった本堂で、大切に仏法を聞かせていただく、正法寺門徒全体の総法事といえるものです。本堂の仏前には、江戸時代から続く、全正法寺門徒の過去帳が供えられます。一年に一度、私とお寺との不思議な繋がりを、ありがたく感じることでできる法要といえるでしょう。

引き続き勤められる降誕会と共に、五月に勤められる二日間の永代経法要は、一月の御正忌報恩講に次ぐ、正法寺の大きな法要として、多くの御門徒の方々に親しまれています。



▲昨年の永代経法要の様子。御講師は、降誕会と同じ大阪市法栄寺前住職の小林顕英先生です。



▲お齋に使われる山菜は御門徒の方々の持ち寄りです。法座当番のご婦人方の手作りです。



▲お齋場の様子です。一年に一度、お弁当箱にお齋が盛り付けられます。

## 本堂用靴箱が 新しくなりました。



男性六人がかりで運んでいた重い靴箱を、この度新しくさせていただきました。新しいものは、アルミ製の折り畳み式で、女性一人でも移動が可能です。永代経懇志の中から、支出させていただきました。

## 本堂内トイレ改修工事完了!

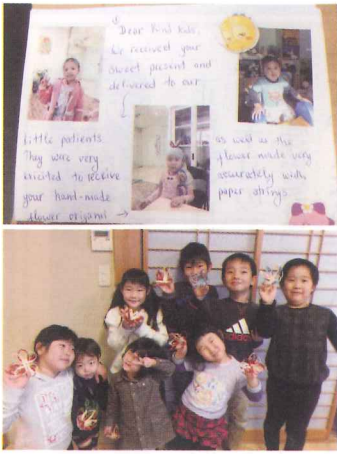
以前から懸案事項だった本堂内トイレの改修工事が、平成二十九年六月に完了いたしました。山口市の公共下水道工事に併せて改修させていただき、費用は、護持費の特別会計で積み立てていたものから支出させていただきました。



●男性用トイレ。水洗になりました。



●女性用トイレ。すべて洋式です。



◆日曜学校ダーナ活動  
 毎年、日曜学校では、子ども達とお母さん方で、モンゴルの小児がんに苦しむ子ども達へ支援物資と励ましの手紙を送っています。この度、モンゴルからお礼のお手紙が届きました。



仏教婦人会役員紹介

代表 (山口南組)  
 伊藤 美星  
 代表  
 井本 由子  
 代表  
 西村 由紀江  
 代表  
 岩脇 幸子

◆参道に咲く花  
 お寺の山門の斜め前、参道の脇にある花壇をご存知ですか？かわいいお花が、お参りに来られる方々を出迎えてくれます。玄珍地区の白井直行さん康子さんご夫妻が、数年前から、お忙しい中、きれいに手入れをしてくださっています。



◆芬陀利華  
 コーヒーサービス  
 御正忌報恩講をはじめ、年に数回、法座の休憩時間にコール芬陀利華のメンバーが、コーヒーサービスを行っています。売上金は、災害支援等のダーナ活動に寄付させていただきます。



◆山口南組ゴルフ大会開催  
 平成二十九年十一月、宇部市小野のゴルフ場で実施され、山口南組の御住職、御門徒の皆様十五名が参加されました。正法寺からは六名の御門徒が参加されました。その中で、他屋地区の重本達雄さんが、見事、準優勝されました。今年も開催予定です。奮ってご参加を！



◆山口南組親鸞聖人讃仰会  
 山口南組親鸞聖人讃仰会が、平成二十九年十月二十二日(土)に本願寺山口別院を会場に開催されました。全体で三百五十人を超える方々がお参りされ、正法寺からは、三十六名の御門徒の方々が参りくださいました。



編集後記  
 今回は、報恩講特集と五月の二大法要並びに前任職様、前坊守様の十三回忌法要が営まれ、お二人を偲んでの思い出を中心に編集しました。  
 お寺にお参りし、子や孫にお念仏の心を伝えていきましょ。

編集委員

- 久保 實
- 岩脇 幸子
- 泉 専六
- 伊藤 洋子
- 金光 雄一

寺族アルバム  
 新発意の法壇は、小学校を卒業し四月に川西中学校へ入学しました。長女の如恵は、興進小学校の五年生です。おかげで、多くの方々にお育ていただきました、すくすく成長しています。



正法寺ホームページ <http://www.shouhouji.com/>  
 「山口市正法寺」で検索して下さい。    
 毎月更新しています。過去の菩提樹もすべて閲覧できます。